

 <h1>宗岡二小だより</h1> <p>学校教育目標</p> <p>○よく考える子 ○やさしい子 ○たくましい子</p>	志木市立宗岡第二小学校
	令和4年度 No.7
	令和4年11月1日
	志木市上宗岡3丁目13番1号
	TEL 048 - 473 - 2305
	児童数11月1日現在390名



秋です 本を読んでみませんか

可知良之

つい最近のことですが、児童書を読んで深く心が揺さぶられるような感動を覚えました。椎野直弥さんの「僕は上手にしゃべれない」という小説です。読もうと思ったきっかけは、本校児童の読書感想文でした。読んだときの感動が伝わってくるようなとても良い感想文でした。図書室の福富先生に聞くと「今貸し出し中です」ということでした。常に貸し出し中ということは良い本の証です。1週間待って読むことにしました。

実際に本を手にとると読書意欲はますます高まります。最近では電子書籍を読むことの方が多くなりましたが、やはり本を手にとる感触は最高です。300ページ少々のもので本としての装丁もしっかりしていました。次に目次。私の読書ルーティーンとでも言うのでしょうか、必ず本文を読み始める前に目次を見ることにしています。

ドラマの予告を見るような感覚です。序章 言葉が出ない・・・第二章 はじめての友達・・・第四章 暗転・・・読書感想文での記述を思い返します。

主人公である「僕」は入学したての中学1年生。「僕」は吃音（きつおん）という誰にも言えない障害がある。そして、この障害があることでこれまでずっと嫌な思いをしてきたし、これからはずっと人とは違った生き方をしなければならないと思っている。そして、自分の苦しみを理解してく

れる人なんて一人もいないと思っている。そのような「僕」ですが、自分自身も変わりたいと真剣に思っているし、実はそのことを応援してくれる人が自分の周りにたくさんいることに、やがて気がついていきます。様々な心の葛藤が読み手にずしんと伝わってくる作品でした。読み始めるとやめられなくなり一気に最後まで読んでいました。子どもが読む本と侮ってはいけません。良書とはどの年代の人が読んでも心に響くところがある本だと私は思っています。良い本に巡り合わせてくれた児童に感謝しています。

最後にあとがきを読んで初めて知ったことですが、著者の椎野さんはご自身が吃音者なのだそうです。吃音は社会的に見れば障害とは見なされていないため、いわれない差別や偏見の目にさらされてきた自分自身の体験が本作品のバックボーンとなっていることを改めて知りました。「僕」は椎野さんそのものだったのだと思います。

4年生では今、ビブリオバトルといって自分のおすすめの本を紹介し合う学習をして、とても盛り上がっています。読書の秋ならではの学習です。そこで、校長先生も1冊、この「僕は上手にしゃべれない」を推薦します。宗岡第二小学校の図書室にありますので、ぜひ皆さん手に取って読んでみてください。きっとあなたも素敵な気持ちになりますよ。